

美しさをプロデュースする、

「医療アートメイク技術者」という仕事。

『見た目』と『メンタル』は密接に繋がっている

ご存知のようにアートメイクは、皮膚のごく浅い層に専用の医療用針で色素を定着させ、本来有るものを補う目的の施術とされていますが、人を『ノーメイクで出かける』気持ちにさせる、人に自信を与える美容術の一つだと思います。

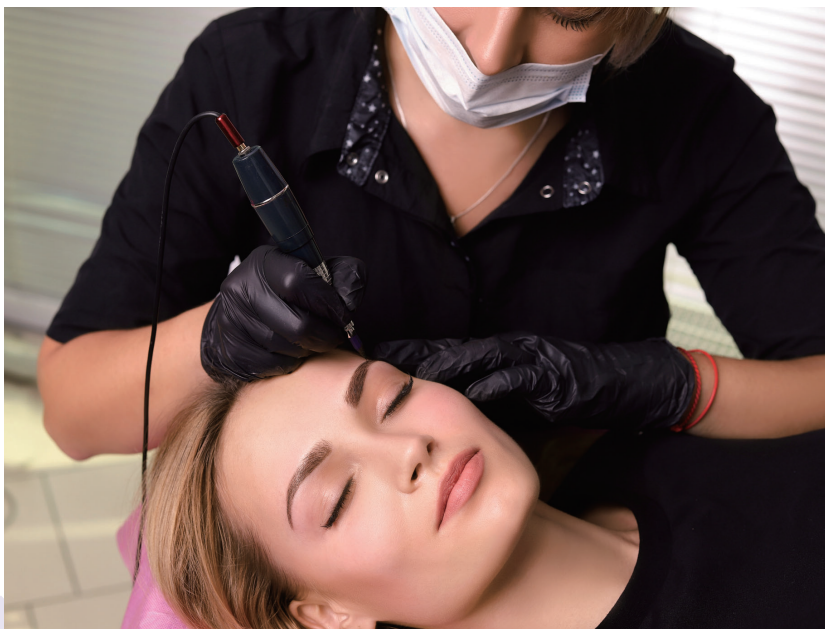
実際、就職活動を控えた大学生の方が『細い眉で怖そうな印象を変えたい』という理由でアートメイクにチャレンジして見た目にも柔らかい印象に変身したことで、『気持ちが出るようになった』『苦手だった人前で話すことが楽になった』と、ご本人の気持ちの変化に繋がった事例や、自分ではお化粧がうまく出来ない年配の方に、ごく自然な眉アートの施術で、『家族や周りの人から若返ったと褒められた』などと喜びの声を耳にします。

年齢や男女を問わず、見た目の悩みを解消することで気持ちや行動に変化が生まれる。人をポジティブにさせるきっかけになるのが、『医療アートメイク』の持つパワーだと言えるかもしれません。

よりナチュラルに、
進化する技術とデザイン

実際、メイクが苦手・時間がない・左右で眉のカタチが違う・薄い眉毛など、特に眉のパーツに対する悩みが多く、美容目的の女性はもちろん、人前に出ることの多い政治家やモデル、芸能人の方や、営業職、接客業の男性の方にも多く利用されています。

今の医療アートメイクはひと昔前の『ベタ塗り眉』と違って、技術の進歩が圧倒的に違います。パウダーでメイクしたように仕上げる（機械（マシン）彫り）や、手彫りで1本ずつ毛並みを描き自眉



のような自然な仕上がりになる（3D）技術、パウダリーなグラデーションで立体感のある眉を仕上げる（4D）や、技術者独自のオリジナルの合わせ技など、希望に合わせてたくさんの手技が選べるようになりました。また、使用する色素も、それぞれの肌の色や眉のデザインに合わせた100種類以上のカラーが再現できるようになりました。

実際は、基礎の理論や技術の習得後、十分な症例を積んでからやっとお客さまへの施術が行えます。希望に沿って骨格やパーツのバランスを考えながら、その方の表情や筋肉の動きを考慮して1ミリのラインを気にしながら仕上げる奥の深い技術なのです。

『医療アートメイク技術者』
という新しい専門分野

また、『医療アートメイク技術者』は、技術だけでなく『美的センス』が必要とされます。その人ごとで違う美しさをキヤッチできる感性やそれを表現する絵心も大切です。

そして、使用する色素が肌に定着した時の発色の変化を想定した『色の勉強』も必要になります。今、第一線で活躍さ

れている『医療アートメイク技術者』の方々は、華やかな部分だけクロースアップされがちですが、技術を磨くことはもちろん、変化するトレンドや多方面の情報にアンテナを張り巡らし、絶えず目に見えない努力や苦労を経験されて今の地位を築いているはずですよ。

また、アートメイクはお化粧のように簡単に修正できないからこそ、事前のデザイン確認やリスクへの理解を十分に伝えるコミュニケーション能力も重要です。実際の施術は、形や色の定着を確認しながら2回〜3回に分けて仕上げていく繊細な技術になります。その後もアフターケアや定期的なリタッチも含めて、お客さまと向き合う時間がとても多い仕事です。より安全で確かな技術提供のためにホスピタリティとコミュニケーションで信頼関係を築きながら、美を形にする『医療アートメイク技術者』は、地道な経験を積みながら、お客さまと一緒に成長できるやりがいのある仕事でもあります。

また、医療アートメイクを導入する美容クリニックが増えている今、活躍の場や、さまざまなバリエーションの動き方も可能な、新しいジャンルの専門職といえるでしょう。